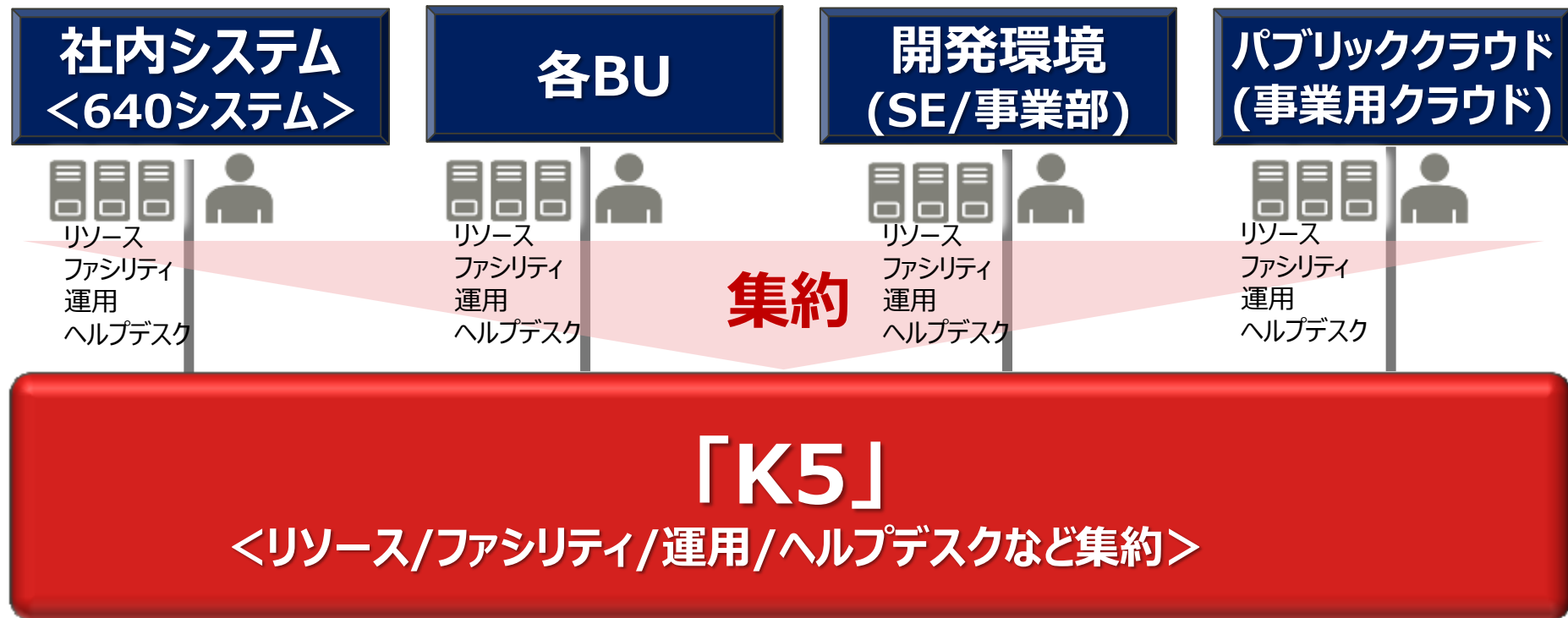


## 社内実践 ～富士通が率先して社内適用～

# **【付録①】 社内実践 ～富士通が率先して社内適用～**

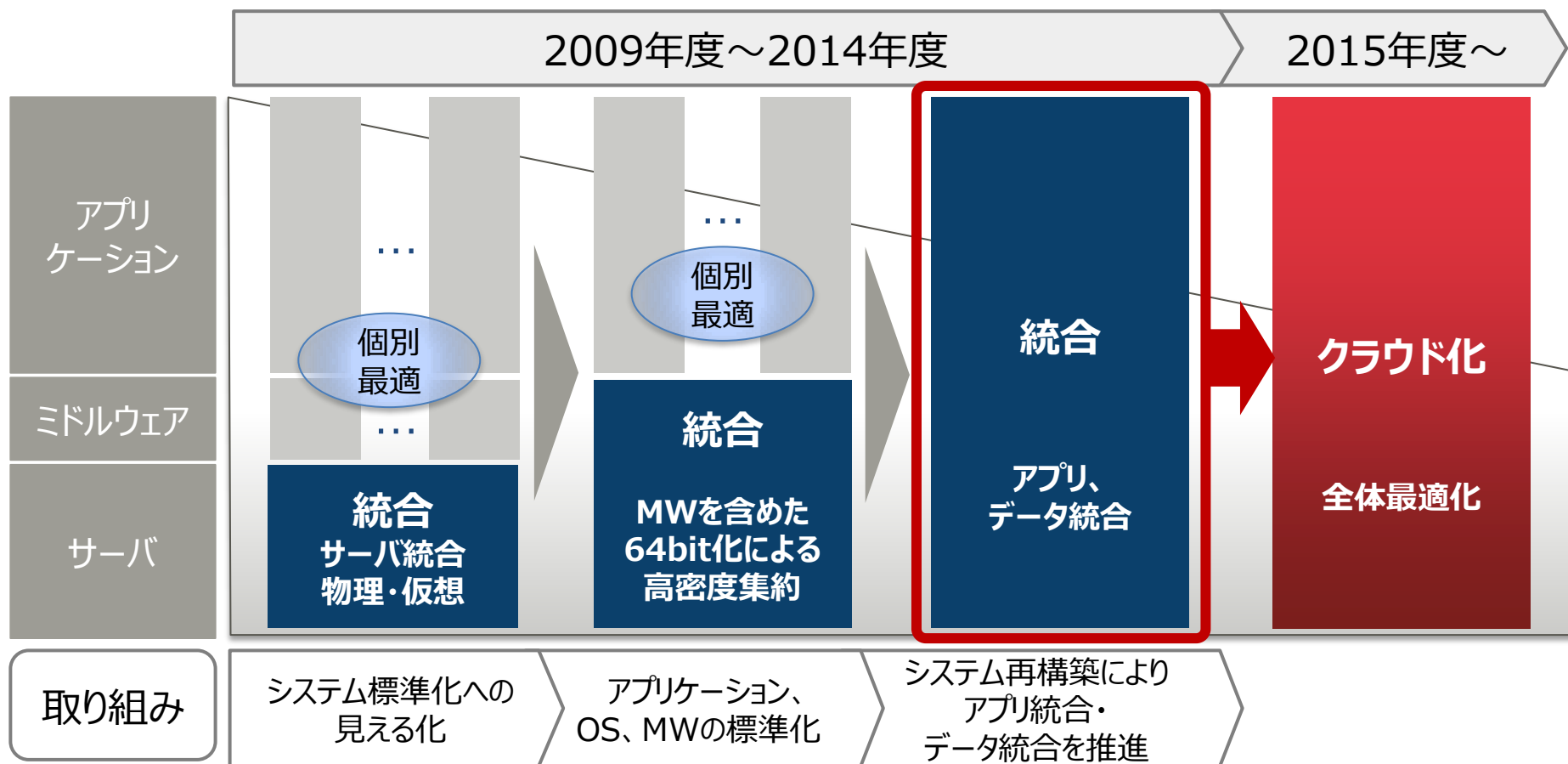
# グループ国内外の社内システムを「K5」に移行

- 全社内システムにおけるリソース・運用の集約により、価格競争力のあるクラウドを提供
- グループ内 約640システム(サーバ 13,000台)を次世代クラウド基盤へ移行。5年間で約350億円のTCO削減



# 全体最適化に向けた取り組み

- **システムの見える化**をもとに、全体最適の視点でシステムを再編
- 再編にあたっては、**グループ全体の社内クラウドサービス化**を目指し、既存資産の再利用も含めた段階的なシステム再構築、インフラ共通基盤整備を進め、TCOの最適化を追求

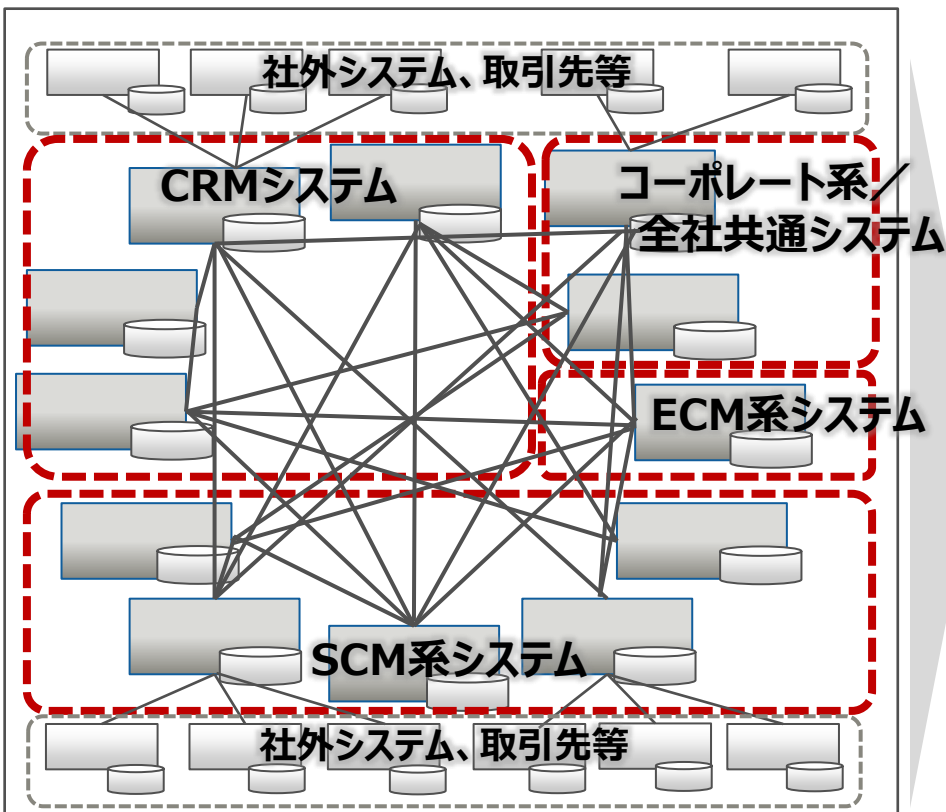


# 変化に強い社内システムへの再編

## ■「見える化」による現状の実態を踏まえた上で、ビジネス変化に強い全体最適化された社内システム実現を目指す(段階的に再編を実施)

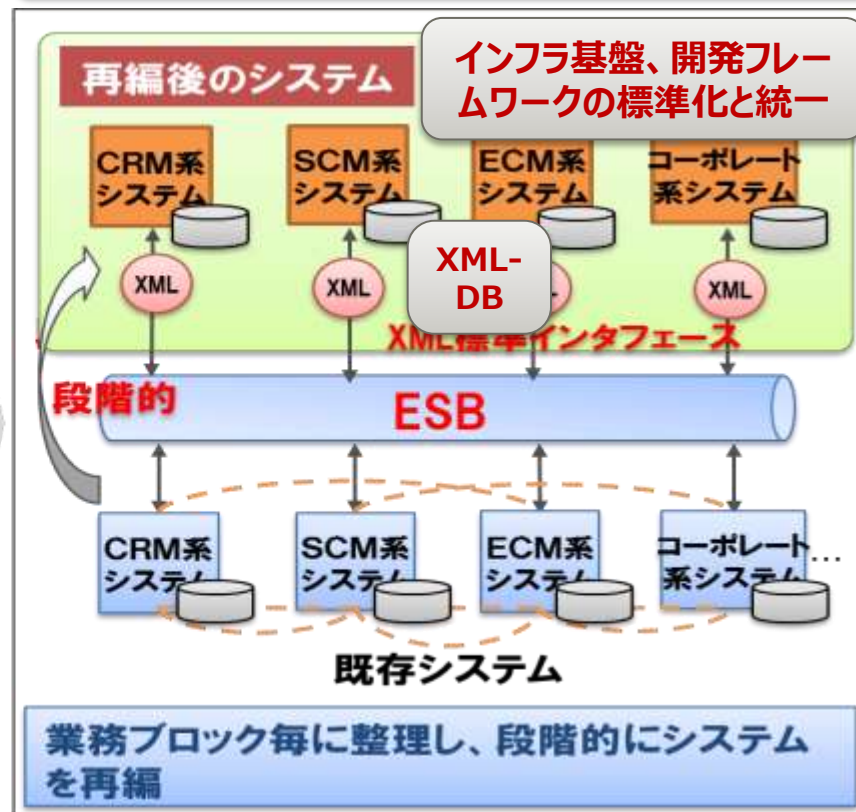
### 【現状】

個別最適によりサイロ化し複雑に絡み合った状態  
機能・データ・連携インターフェースの重複



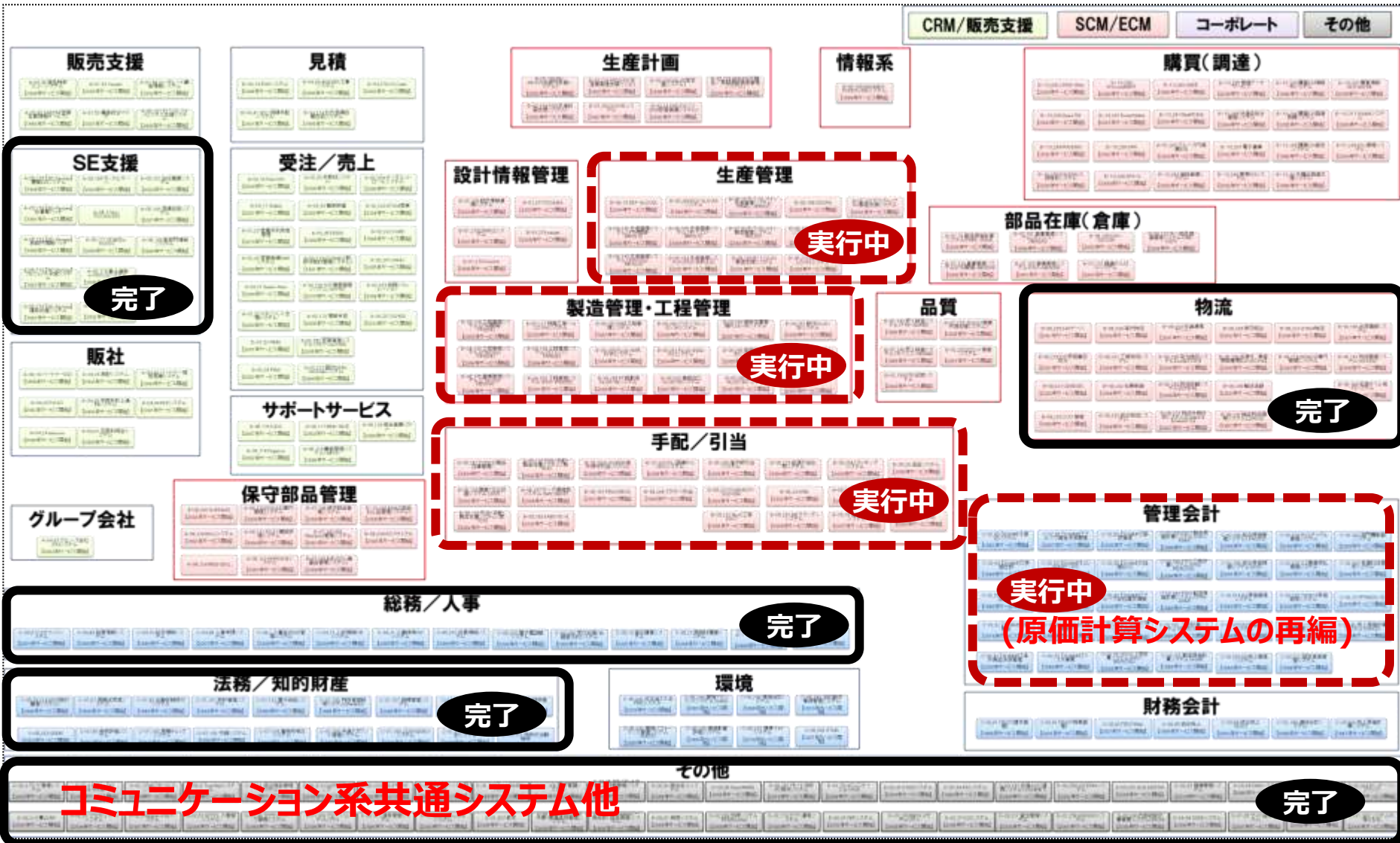
### 【今後(目指すべき姿)】

統一された技術適用方針(ESB、XML技術等)  
により変化に強い情報システム基盤を構築



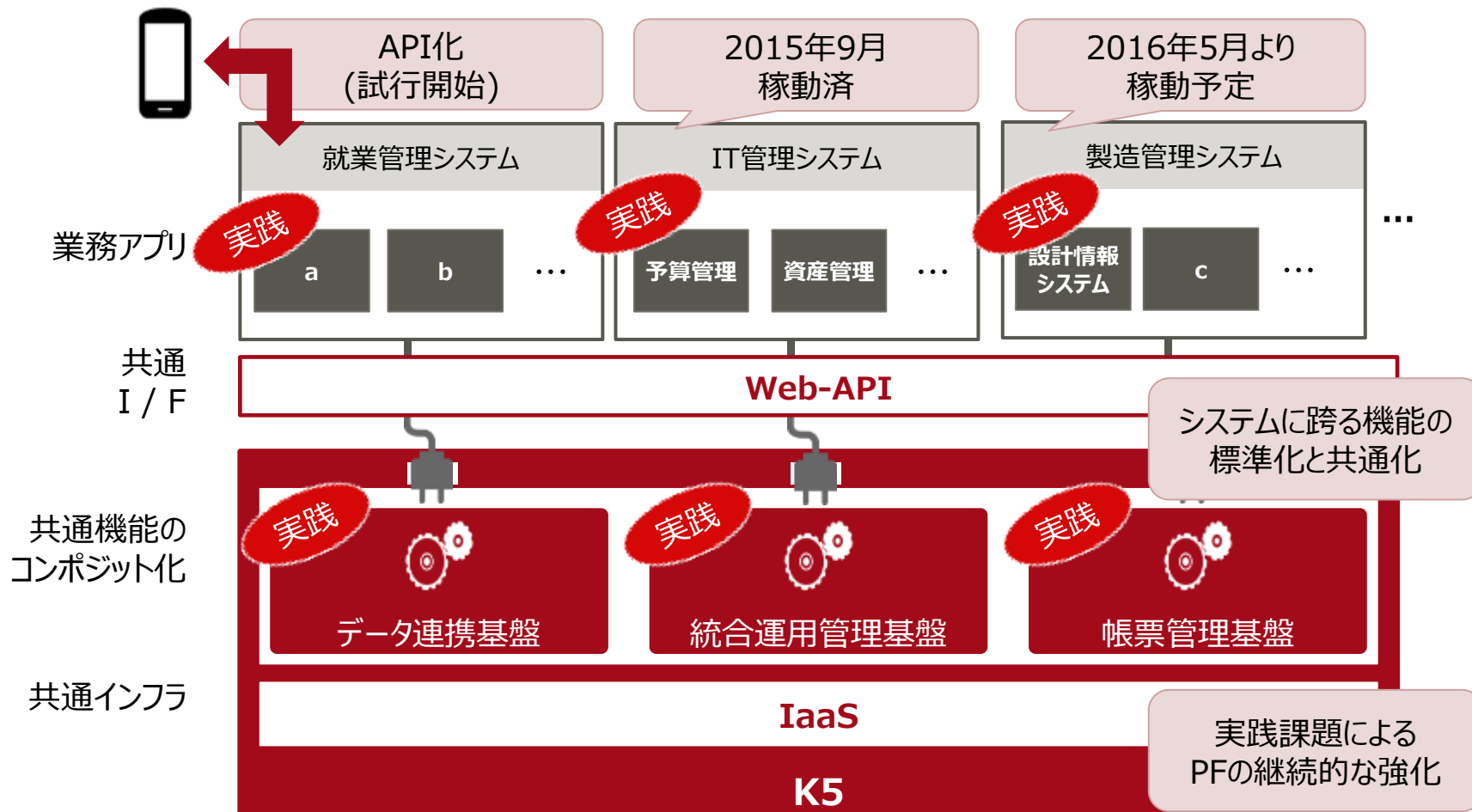
# 全体最適化に向けた社内システムの再編成

## 複雑に絡み合ったシステムをシンプルな構成に再構築



# 「K5」による全体最適化

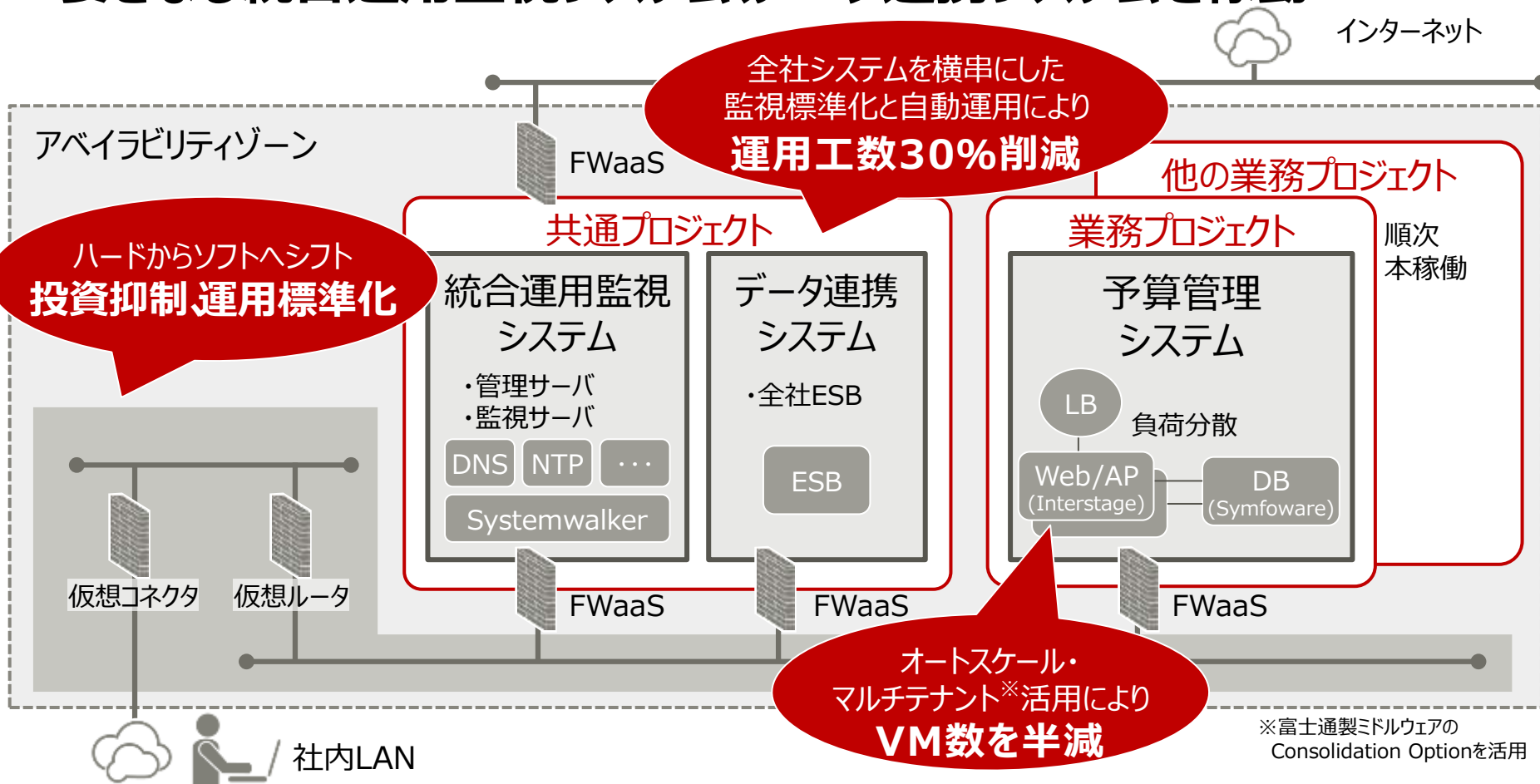
- 標準化と共通化(I / F、機能、インフラ)により、システム全体を最適化
- 社内システムを段階的に移行中





# 予算管理システム

## ■ 予算管理システム 2015年9月本稼動。同時に社内システムの要となる統合運用監視システム、データ連携システムを稼動

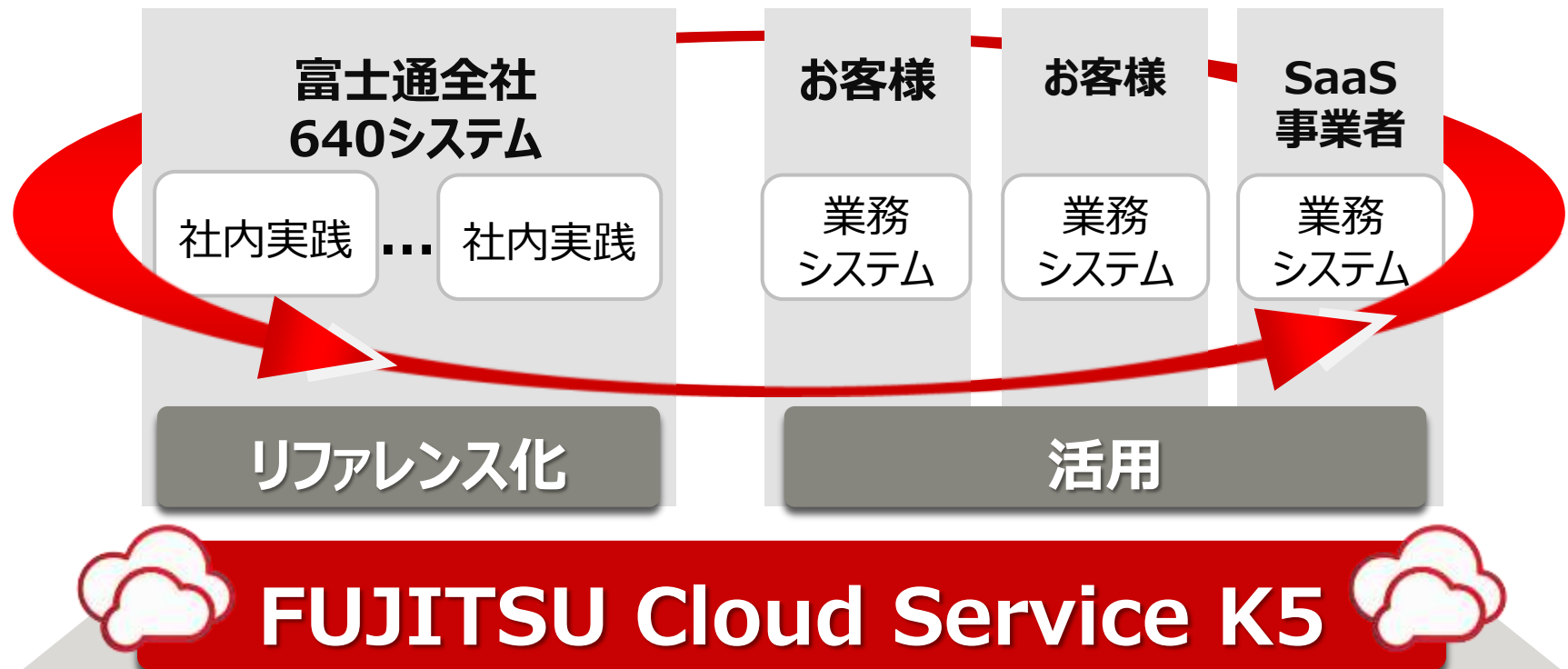


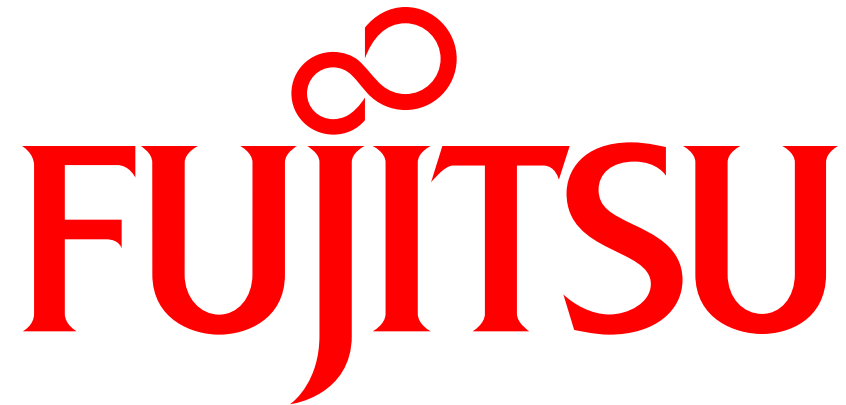
- ・ バーチャルプライベートホステッドモデルにより、強固なセキュリティ環境で運用開始
- ・ サイジング、調達作業から解放され、導入期間を1/8(4ヵ月⇒2週間)に短縮



# 社内実践によるリファレンス化

- 富士通社内システムで自ら実践して得られたノウハウをリファレンス化し、継続的にサービスとして提供





shaping tomorrow with you